

平成 21 年 8 月 13 日

平成 22 年 3 月期第 1 四半期の業績に関するお知らせ

当社は、本日平成 22 年 3 月期第 1 四半期決算短信を発表しましたのでお知らせします。また、同時に四半期報告書を提出いたしましたので併せてお知らせします。

主な内容は以下の通りです。

経営成績、財政状態等について

・当第 1 四半期会計期間の業績は、売上高 1,036 百万円（前年同期 2,156 百万円、51.9%減）、経常利益 229 百万円（同 998 百万円、77.0%減）、四半期純利益 328 百万円（同 590 百万円、44.4%減）となりました。また、本年 1 - 3 月期の業績と比較すると、売上高は 64 百万円減少しているものの、売上総利益率の向上や研究開発費の減少に伴い営業利益は 190 百万円増、経常利益は 177 百万円増となっております。また、四半期純利益は 294 百万円増となっております、いずれも当社の設定した予想の範囲内でした。

（単位：千円）

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/4/1 ～ 6/30	2,156,967	1,430,351	267,499	966,531	998,646	590,112
2008/7/1 ～ 9/30	1,414,074	937,130	497,036	246,384	243,062	200,730
2008/10/1 ～ 12/31	1,322,326	829,343	417,152	215,001	137,900	110,951
2009/1/1 ～ 3/31	1,100,331	703,220	469,901	40,647	52,343	34,330
2009/4/1 ～ 6/30	1,036,825	738,400	339,900	231,057	229,643	328,372
増減 (対直前四半期)	-63,506 -5.8%	35,180 5.0%	-130,001 -27.7%	190,410 468.5%	177,300 338.7%	294,042 856.5%
増減 (対前年同期)	-1,120,142 -51.9%	-691,951 -48.4%	72,401 27.1%	-735,474 -76.1%	-769,003 -77.0%	-261,740 -44.4%

・上記の前年同期減収減益の主な原因は、前年同期は Amitiza®カプセルの特別出荷（適応追加承認にともなう初期出荷）があり、1,313 百万円の売上高であったのに対し、当第 1 四半期は在庫調整中のため、273 百万円の売上高にとどまったことによります。しかしながら Amitiza®カプセルの当第 1 四半期における生産実績は 385 百万円（前年同期は 604 百万円）、受注実績は 537 百万円（同 156 百万円）となり受注実績は増加しています。レスキュラ®点眼液 0.12%の売り上げは、前年同期比 10.5%減の 725 百万円でした。

・レスキュラ®点眼液の米国、カナダでの販売承認および販売権をスキャンポファーマ アメリカズ インク社（Sucampo Pharma Americas, Inc：Sucampo Pharmaceuticals Inc 社の 100%子会社）に譲渡したため、その契約一時金として受領した 300 万ドル（290 百万円）を特別利益として計上しました。

・当第 1 四半期会計期末の財政状態は、流動資産 5,270 百万円（前期末 5,201 百万円）、固定資産 2,567 百万円（同 2,641 百万円）、流動負債 763 百万円（同 1,220 百万円）、固定負債 413 百万円（同 869 百万円）、純資産 6,204 百万円（同 6,210 百万円）で、自己資本比率は 79.2%（同 79.2%）でした。

・当第 1 四半期会計期末の現金および現金同等物は、2,400 百万円（前年同四半期 1,818 百万円 582 百万円増）、短期有利子負債 500 百万円（前年同四半期は長期有利子負債 500 百万円）、貸出コミットメントライン 3,000 百万円（同 3,000 百万円）でした。

配当について

・平成 21 年 6 月 26 日に開催された第 20 期定時株主総会で決議された配当金、一株当たり 6,500 円、総額 319 百万円を支払いました。

今期の業績予想について

・当社は、平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想について上方修正を行いました。

当社は代表取締役社長真島行彦をはじめとする新体制の下、「医師の目線で医薬品販売・開発を行う分野特化型（眼科・皮膚科）のグローバルな医薬品会社を目指す」、「業績回復のため、収益力を強化し、バランスのとれた成長を目指す」という新たな経営方針を掲げております。その実現に向けて役員報酬の見直しや執行役員制度の廃止、研究部門と製造部門を統合する組織変更を行うこと等によるコストの削減を行いました。

また、平成 21 年 7 月 29 日のプレスリリース「RU-10 の第 1 相臨床試験の途中終了について」のとおり、当社は RU-10 の臨床試験を第 1 相の途中で終了することを決定し、以後予定していた臨床開発を先送りすることを余儀なくされたため、RU-10 にかかる研究開発費が減少しました。

しかしながら、同日のプレスリリース「研究開発品目に関するお知らせ」のとおり、新規パイプラインを追加することに伴い、新たに研究開発費が発生する見込みとなったため、研究開発費の総額は増加しております。

上記の見直しの結果、販売管理費が減少し、当初の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想値を上回る見込みとなりました。

・修正後の平成 22 年 3 月期の通期業績予想は、売上高 4,184 百万円（前回予想比 1.6%増）、営業利益 675 百万円（同 24.5%増）、経常利益 664 百万円（同 25.0%増）、当期純利益 603 百万円（同 18.6%増）です。

経営に関する最新情報（平成 21 年 4 月 1 日から現在まで）

・平成 21 年 4 月 23 日、レスキュラ®点眼液の米国・カナダにおける販売承認および販売権をスキャンポファーマ アメリカズ インク社に譲渡するとともに、独占的製造供給契約を締結しました。当社は、この契約の一時金として 300 万ドルの支払いを受けました。また、この契約により Sucampo 社が同地域において今後実施する臨

床治験等の成果を無償で使用する権利を得るとともに、今後の開発、販売の進捗状況により最大 550 万ドルの追加支払いを受けることとなります。

・平成 21 年 6 月 26 日開催の第 20 期定時株主総会およびその後の取締役会における決議を経て新経営陣が決まりました。新しく代表取締役社長に就任した真島行彦は、同日のメッセージで「医師の目線で医薬品の開発・販売を行う分野特化型（眼科・皮膚科）のグローバルな医薬品会社を目指す」と述べました。

・平成 21 年 7 月 16 日、当社は男性型脱毛症治療薬として開発中の RK-023 に関して第 1 相臨床試験結果を発表しました。その結果、予定通り第 2 相臨床試験に進むことになりました。

・平成 21 年 7 月 21 日、当社は経営の効率化を目的として執行役員制度を廃止し新組織を発表しました。新組織では、代表取締役社長を議長とする経営会議の諮問・提言機関として、Medical Advisory Board を置き、医療の現場からの意見、提案を経営に取り込み、より一層現場の声を反映した医薬品の開発と販売を目指すこととなりました。

・平成 21 年 7 月 29 日、当社は、重点領域である眼科、皮膚科領域での研究開発品目（パイプライン）を発表しました。開発コード、UF021、RTU-007、RU-10、RK-023、RTU-1096 の 5 個の新規化合物をパイプラインとしてピックアップし、臨床開発を進めることを正式に決定しました。詳細については、当社ホームページ上の <http://rtechueno.com/company/business/business.html> をご参照ください。

本日、平成 22 年 3 月期第 1 四半期決算短信および四半期報告書について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 真島行彦は、以下のコメントを発表しました。

「平成 22 年 3 月期第 1 四半期は、前期に比べると大幅な減収減益となっておりますが、これは主にスキャンポ社から製造委託を受けている Amitiza®カプセルに関して、前年同期は特別出荷（適応追加承認にともなう初期出荷）があったため 1,313 百万円の売上だったのに対し、今期は在庫調整中のため 273 百万円となったためです。純売上を計上している武田薬品工業の発表によれば、北米での Amitiza®カプセルの最終売上そのものは前年同期比微増となっております。

また、発売 15 年目に入るレスキュラ®点眼液 0.12%の売上は、前年同期比 10.5%減となりましたが、ロングセラー商品として患者様に届いていることを嬉しく思います。更に、米国のスキャンポ社との提携を積極的に進めることで、本剤の新しい適応症である萎縮型加齢黄斑変性の臨床試験が進捗することを期待しています。

当社は本日、業績予想の修正を発表いたしました。将来の大きな収益源となる研究開発については、その時々で注力すべきパイプラインを選定し、先行投資を行ってまいります。同時にその他のコストについては賃料等の固定費などを含め、可能な限り削減を行ってまいります。

平成 21 年 6 月 26 日に社長に就任して 1 ヶ月半が過ぎましたが、眼科・皮膚科に特化したグローバルな医薬品会社として、5 品目の新薬候補（パイプライン）の開発を進めるとともに、医師の目線での総合的な医療サービスができるユニークな会社を目指します。

また、当社はこの度ホームページを刷新いたしました。今後も IR（投資家向け広報）の充実を図り、当社の潜在的な成長力や先進技術を投資家の皆様にご理解頂くために、開発パイプラインの進捗状況やタイムリーかつ分かりやすい経営状況の開示などに努めてまいります。」

以上